

沖縄県平和祈念資料館だより

第15回 特別企画展の開催報告

「南洋の群星が見た理想郷と戦～70年の時を超えて 旧南洋群島ウチナンチュの汗と血、そして涙～」をテーマに、第15回特別企画展を沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館で開催しました。

今回の特別企画展では、戦前、国策や貧困から抜け出す為、旧南洋群島へ希望を持ち、たくましく生活基盤を作ってきた沖縄県出身者(ウチナンチュ)を特集しました。

1943年当時の旧南洋群島では、約55,000人のウチナンチュが住んでおり、日本人移住者全体の約60%を占めていました。そこでキビ栽培や漁業等に励み、平和で心豊かな生活を築き上げていたのです。

しかし、70年前、わずか数週間の戦いでしたが沖縄戦と同様に、ウチナンチュが地上戦に巻き込まれ大きな犠牲を強いられました。

今回の特別企画展では彼等の戦前・戦中・戦後の境遇や戦後の南洋群島帰還者会の活動など実物資料や写真パネルの掲示、ビデオ上映を通して、多角的な視点で平和を見つめる展示としました。

旧南洋群島に住んでいたウチナンチュのことはあまり知られていませんが、彼等の体験を取り上げ、今を生きる私たちに伝えることで、戦争の愚かさや平和の尊さについて考え、平和を希求する「沖縄の心」を発信する機会としました。

- 1. 名 称: 第15回特別企画展「南洋の群星が見た理想郷と戦」
- 2. 開催期間: 平成26年10月 9日(木)～12月11日(木) 沖縄県平和祈念資料館
: 平成27年 1月17日(土)～ 2月26日(木) 八重山平和祈念館

3. 展示内容

第I部: 生まれ島から希望の島へ ～第二の故郷として～

- (1) 旧南洋群島と日本
- (2) 旧南洋群島へ渡ったウチナンチュ移民
- (3) 戦略的な価値としての旧南洋群島

第II部: 希望の島から玉砕の島へ ～もう一つの沖縄戦～

- (1) サイパン島・テニアン島・ペリリュー島の戦闘経緯
- (2) ウチナンチュが見た地獄の地上戦
- (3) 終戦 南雲忠一中将司令官最後の訓示から沖縄戦へ
- (4) 収容所

第III部: 玉砕の島から捨て石の島へ ～引揚げ 受け継がれる慰霊の心～

- (1) 沖縄への引揚げ
- (2) 南洋群島帰還者会の創設と今も続く現地慰霊祭
- (3) 平和を願い未来のために語り継ぐ ～記憶を紡ぎ 未来へ繋ぐ～



沖縄県平和祈念資料館での開催 (十月九日)



開会式テープカット



観覧の様子 観覧者数 (20,476人)

八重山平和祈念館での開催 (二月十七日)



開会式の様子



観覧の様子

シンポジウム

「日系二世ウチナーンチュが見た戦中・戦後」～母国と祖国の間で～ 開催報告(日系米国人版戦争体験収録事業)

平成26年12月6日(土)、沖縄戦に参戦した元陸軍情報部通訳兵で、ガマに隠れる住民に信用してもらえるようウチナーグチで投降を呼びかけ多くの命を救った日系二世タケジロウ・ヒガ氏、GHQに所属し、戦後復興に尽力した日系二世ヨシノブ・オオシロ氏を当資料館にお迎えし、シンポジウム「日系二世ウチナーンチュが見た戦中・戦後」～母国と祖国の間で～を開催しました。日米開戦後、日系人に対する

差別に苦悩しながら米軍に志願し、アメリカ兵として両親の祖国に降り立った苦悩、シベリア抑留帰還者の尋問の様子、祖母を初めて訪ねた際のエピソード、住民に投降を呼びかけた際のエピソードなどを語っていただきました。沢山のメディアでも紹介され、県民が彼らの苦悩に共感し寄り添うことで祖国のために尽くしたお二人に恩返しできた一日となりました。



日系米国人版戦争体験収録事業 「日系二世が見た戦中・戦後」移動成果報告展開催

当館では平成26年度日系米国人版戦争体験収録事業「日系二世が見た戦中・戦後」～母国と祖国の間で～として昨年7月より現地での調査、収録を行って参りました。その集大成として、20名の二世の証言パネル、映像、関連資料を展示し発信する移動成果報告展を開催します。平成27年2月11日からの那覇空港を皮切りに、JICA横浜、羽田空港、当資料館において平成27年6月30日まで開催しております。

今回の調査、収録では、沖縄戦において、両親の故郷、自分が育った沖縄に、敵として複雑な思いで降り立った帰米二世や、実の弟と敵味方同士で戦うことになった沖縄系二世、母国への忠誠を拒否し、米国人

でありながら、強制収容所で長年生活を強いられた二世、学徒看護隊として軍と共に行動し、後に捕虜になりハワイへ移民した県系人など最高齢100歳の二世の方々から証言を収録しました。

資料館関連行事では初の開催となる那覇空港展では、沖縄に興味関心があるが、今まで沖縄戦や日系二世の戦争体験に触れる機会が無かった観光客の皆様が熱心に沖縄戦に関する説明パネル、証言文を読み込む姿が多数見られました。「たまたま立ち寄ったが、日系二世の苦悩や沖縄戦の悲惨さなど初めて知ることができ、今回の沖縄旅行で一番の収穫だった。」と感想を述べていただきました。

平成26年度 第5回子ども・プロセス企画展 『沖縄戦の絵 ー体験者が描く地獄の戦場ー』

今年は、第二次世界大戦および沖縄戦の終結から 70 年の大きな節目の年です。年々戦争体験者が減少していく中で、戦争の記憶を次の世代にどう継承していくかが大きな課題となっています。

当館は、戦争体験の絵を約 600 点所蔵しています。今回、これらの中から沖縄戦に関する絵を選び、子ども向けの企画展「沖縄戦の絵 ー体験者が描く地獄の戦場ー」を開催することにいたしました。悲惨な沖縄戦を体験した方々の絵を通して、戦争の実相と平和の尊さを学んでほしいと思います。

〔期間〕平成 27 年 3 月 2 日（月）～5 月 17 日（日）

〔場所〕1 階 子ども・プロセス展示室



第24回「児童・生徒の平和メッセージ展」報告

恒久平和を願う「沖縄の心」を県内外に発信する当館の主要事業の一つである「児童・生徒の平和メッセージ展」は、戦争や人権問題など、学校で学習したこと、生活の中で感じた「平和」をイメージした図画、作文、詩を県内の小・中・高校及び特別支援学校の児童・生徒から募集し、優秀な作品を表彰す

るもので、沖縄県教育委員会との共催で毎年実施しています。今回入選した作品については、県内5カ所とハワイ沖縄センター（ハワイ州ホノルル市）を含む6カ所で巡回しました。ご来場頂いた皆様に心より感謝申し上げます。各会場の写真を紹介します。

○沖縄県平和祈念資料館(6/23～7/9)



○八重山平和祈念資料館 (7/16～7/27)



○県庁 1 階 県民ホール (8/18～8/22)



○ハワイ沖縄センター／ハワイ州ホノルル市 (平成27年 1/21～1/25)



インターンシップ受け入れ報告

児童生徒の望ましい職業観・勤労観を育むため、当資料館では学校からの要望に応じて、毎年、職場体験及びインターンシップの児童生徒を受け入れています。平成26年度は、県立高校3校から5名、インターンシップ生を受け入れました。

インターンシップ生を受け入れる事により、明るく爽やかな雰囲気が生まれ、当館の職場活性化にもつながりました。

インターンシップを体験した生徒の皆さんそれぞれが、自分の個性を発揮し、将来地域のために活躍できる人物になることを期待しています。



事務処理体験をする沖縄水産高校生

【学校名・人数・期間】

- ① 沖縄県立沖縄水産高等学校(2名) 10月22日(水)～24日(金)
- ② 沖縄県立豊見城南高等学校(2名) 11月12日(水)～14日(金)
- ③ 沖縄県立糸満高等学校 (1名) 11月12日(水)～14日(金)

【主な体験内容】

- ① 文書整理
- ② 設備保守点検
- ③ 警備業務
- ④ 展示用キャプション作り
- ⑤ 受付業務
- ⑥ ライブラリー業務



キャプション作成体験をする豊見城南高校と糸満高校の生徒

平成26年度 友の会講話・ガイド活動実績件数

◎平成26年4月～平成27年2月までの活動状況

(県外)

団体	実施件数	実施人数	派遣講師
高等学校	56	9,396	56
中学校	47	4,589	47
小学校	2	192	2
その他	20	538	20
合計	125	14,840	125

(県内) ※資料館活動含む。

団体	実施件数	実施人数	派遣講師
高等学校	17	7,415	17
中学校	35	6,467	35
小学校	104	15,178	104
その他	18	516	18
合計	174	29,576	174
県内+県外合計	299	44,416	348

平成26年度 活動内容

- (1) 2階常設展示室の解説員(82回)
- (2) 協力事業:平成26年4月26日(土)「平和祈念財団」鯉のぼり掲揚式への協力
- (3) 友の会総会:平成26年5月17日(土)
- (4) 学習会1:平成26年6月7日(土)
戦跡フィールドワーク:「徒歩で行く安里から首里への道 月桃の花咲く頃」
- (5) ガイド:平成26年8月13日(水)「平和教育」
「平和の礎・国立沖縄戦没者墓苑ガイド」

- 沖縄県立高等学校、特別支援学校初任者及び新規養護教諭、幼稚園教諭、学校栄養職員研修
- (6) 協力事業:平成26年10月3日(金)「平和祈念財団」平和祈念公園愛護活動への協力
- (7) 協力事業:平成26年10月16日(木)「摩文仁の戦跡めぐり」沖縄・カンボジア「平和文化」創造の博物館づくり協力
- (8) 協力事業:平成27年2月5日(木)「平和祈念財団」職員研修・摩文仁が丘現場研修協力

資料の貸出について

本館では、沖縄戦関係の写真パネル、砲弾の破片、水筒、手榴弾などの実物資料、沖縄戦に関する絵等の貸出を県外の学校、公共機関、平和団体などに貸出を行っています。

今年度は、44件、418点の資料を貸し出しました。県内では、小中高校をメインに児童・生徒への平和学習等に活用され、県外からは、東京都や京都府、埼玉県及び秋田県等において、平和に関する展示会や学校での平和学習、修学旅行の事前学習に活用していただきました。

これからも資料貸出を通して沖縄戦の実相を伝え、沖縄の「平和の心」を県内外へ伝えていきたいと思ひます。



〔貸出資料:鉄かぶと・水筒〕



〔貸出資料:手榴弾・小銃弾丸〕

※貸出可能な資料の写真や「貸出申請書」等は当館のホームページに掲載しています。詳しくは当館へお電話下さい。

平成26年度 沖縄県平和祈念資料館講習会

当館への案内業務に携わっている旅行・観光等の関係機関の方々を対象に、本館の設立理念や目的・役割、施設・設備及び展示内容等について理解・認識を深めてもらい、利用活用並びに案内業務の推進を図ることを目的に資料館講習会を実施しました。



備及び展示内容等について理解・認識を深めてもらい、利用活用並びに案内業務の推進を図ることを目的に資料館講習会を実施しました。

<日 時>平成26年7月9日(水) 13:00~16:00
 <場 所>沖縄県平和祈念資料館 2階大会議室
 <対 象>タクシー乗務員・バスガイド・ボランティアガイド
 観光関係者等
 <講話内容>平和祈念公園及び資料館施設説明・展示内容・沖縄戦の特徴
 <参加者>37名
 次年度の資料館講習会の開催は、7月に予定しています。

JICA沖縄連携事業

①国際協力・交流フェスティバル2014参加報告

平和祈念資料館は、「世界の人々に平和を希求する私たちの心を訴え、世界の恒久平和の樹立に寄与する」という設立理念のもと国際協力活動も行っています。特にJICA沖縄とはパートナーとして連携事業を実施していることもあり、国際協力・交流フェスティバルに毎年ブース出展しています。



[日 時] 平成26年11月8日(土)~9日(日)
 [場 所] JICA沖縄国際センター本館2階(205室)
 [入場者数] 6,992人(フェスティバル全体の数)

②草の根技術協力事業(地域連携型)

沖縄・カンボジア「平和文化」創造の博物館づくり協力

その1 ~カンボジア研修員現地研修~

平成24年度から3カ年計画の3年目となります。今年も、

カンボジア国立博物館およびトゥールスレン虐殺博物館のスタッフ4名が来館し、沖縄戦の体系的な展示の仕方や平和学習の実践等について研修をおこないました。



[期間] 平成26年10月14日(火)~16日(木)

その2 ~写真企画展「カンボジア王国の光と影III」(巡回展)~

研修をおこなったカンボジア人研修員による手作りの展示会です。今回は、カンボジア伝統芸能アプサラダンスの冠、楽器7点を展示しました。



とくにハンズオン形式で展示した楽器は、来館者が音を奏でるなど、好評でした。

[期間] 平成26年12月18日(木)~平成27年1月12日(月)

寄贈品紹介

(1) 実物資料

12個人・2団体から、29件116点の資料寄贈がありました。

※平成27年1月31日現在

NO	寄贈日	資料名	数	寄贈者
1	H26年4月1日	文書(12)写真(65)	77	財団法人沖縄県傷痍軍人会
2	5月31日	遺書	1	濱田満喜子氏
3	6月7日	油絵「散華は惨い」野津唯市氏作	1	野津唯史氏
4	6月19日	手帳	1	仲嶺嶺子氏
5	6月19日	通信訓練必携(複写)	1	山城安勝氏
6	6月25日	三和村真栄平青年団団旗	1	仲吉勇氏
7	6月25日	砲弾の破片	1	金城進一氏
8	7月24日	風鈴(1)寄せ書き(1)	2	羽地郁枝氏
9	7月27日	日本海軍制服	1	有銘祐子氏
10	9月25日	戦後資料文書(7)	7	沖縄県文化振興会
11	11月26日	旧日本軍 無線機(1)蓄電池(1)	2	吉江史扇氏
12	12月4日	糸数むめ氏 旧満洲関係資料(18)	18	新垣恭子氏
13	12月19日	旧日本軍銃剣	1	上江洲朝清氏
14	12月23日	旧日本軍 軍服(1)外套(1)	2	松島寛行氏

(2) 図書資料

5名の方から、5点の図書資料寄贈がありました。これらは当館内の情報ライブラリーにて閲覧できます。

※平成27年1月31日現在

NO	寄贈日	資料名	数	寄贈者
1	H26年4月19日	絵本	1	本橋祥子氏
2	5月15日	DVD「THE CONSCIENTIOUS OBJCTOR」 デズモンド・ドス~良心的兵役拒否者~	1	吉田吉雄氏
3	6月21日	書籍「死闘-沖縄戦体験記-」	1	比嘉文子氏
4	7月24日	書籍「十一歳の少女の戦場体験記」 昭和十九年~二〇年沖縄	1	赤嶺小枝子氏
5	12月11日	書籍「戦争体験記26号サイパン・テニアン記 バンザイ・クリフ-自殺の断崖-」	1	宮城恒彦氏

八重山平和祈念館 平成26年度 事業実施報告

①夏休み企画展「八重山の昔ばなし」

夏休み平和学習会(自由研究相談室、アニメ上映会及び体験コーナー)

[期間]平成26年8月1日(金)～8月31日(日)

八重山の島々で、親から子、そして子から孫へと語り継がれる民話を収集し、より多くの子どもたちに伝えるために、パネルや冊子にして展示しました。

また、夏休みの平和学習の場として、平和や人権、戦争や戦争マラリアに関する自由研究相談会を実施し、平和・人権についてのアニメ上映会も行いました。

体験学習コーナーでは多くの子どもたちが、友人や親御さんと一緒にパーランクー作りを楽しんでいました。

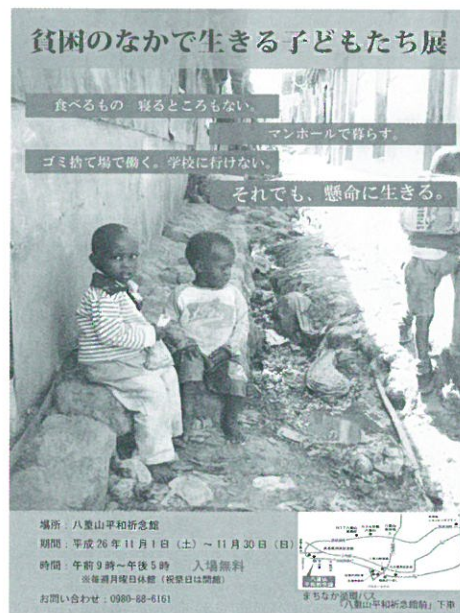


②「貧困のなかで生きる子どもたち展」

[期間]平成26年11月1日(土)～11月30日(日)

マンホールチルドレンやスモークーマウンテンで生活する子どもたち等、衣食住に不自由するような環境で暮らしている世界の子どもたちや、そのような子どもたちの支援活動を行っている県内の団体を、パネル、資料等により紹介しました。

困難な状況でも逞しく生きていく子どもたちや、ウチナンチュの善意を集めて建てられた学校で、真剣に学ぶ現地の子どもたちの様子などを通して、今の私たちの豊かな生活や、「生きる」ということについて、あらためて見つめなおす機会としました。



③第15回特別企画展「南洋の群星が見た理想郷と戦」

[期間]平成27年1月17日(土)～2月26日(木)

今から約 90 年前に沖縄県から旧南洋群島に移住したウチナンチュの生活と、日米両軍の戦闘により数週間で大勢の犠牲者が出た戦争、そして、そこから沖縄県に引き揚げてきた方々について、パネル、映像、資料等により紹介しました。これまであまり取り上げられることのなかった、旧南洋群島のウチナンチュについて、大勢の方々が興味深く観覧していました。





OKINAWA PREFECTURAL PEACE MEMORIAL MUSEUM

沖縄県平和祈念資料館 平成27年度年間スケジュール

Event Schedule

2015.4
▼
2016.3

開館時間

午前9時～午後5時
(常設展示室への入室は午後4時30分まで)

休館日

・年末年始(12月29日～1月3日)

観覧料(常設展示室)

	個人	団体 (20名以上)
大人	300円	240円
小人	150円	100円

住所 〒901-0333

沖縄県糸満市字摩文仁614-1

Tel 098-997-3844

Fax 098-997-3947

HP <http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp>

Mail webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp

月	日	企画展	催し物など
4月	1		◆3日(金)、6日(月) 学校向け平和講話等 利用説明会
	2		
	3		◆5日(火) 子供の日ビデオ上映会
	4		
	5		◆14(木)、15(金) 沖縄博物館協会研修会
	6		
	7		
5月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
6月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
7月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
8月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
9月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
10月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
11月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
12月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
1月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
2月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
3月	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		

※●は休館日

※行事内容・日程は都合により変更になる場合があります。

第25回 児童・生徒の平和メッセージ(図画・作文・詩)作品募集要項

1. 募集対象

沖縄県内の小・中・高等学校、高等専門学校、特別支援学校の児童・生徒

2. 応募方法

<各部門共通>

- 作品はすべて所属の学校を通して応募する。
- 図画・作文・詩ともに未発表作品で、各分野につき一人一点とする。
- 学校名、学年、氏名(フリガナ)、題名を必ず応募ラベルに記入する。

<図画部門>

- 市販の画用紙(四つ切り、38cm×54cm)を使用する。
- 画材、表現方法等は自由であるが、立体作品は避ける。
- 図画には文字のメッセージは入れない。

<作文部門>

- 原稿用紙は、400字詰め・B4サイズ・縦書き、市販の用紙を使用する。
- 小学校低学年は原稿用紙2枚程度、小学校中学年は3枚程度、小学校高学年は4枚程度、中学生及び高校生は5枚程度とする。
- 作品は清書して提出する。

<詩部門>

- 原稿用紙は400字詰め・B4サイズ・縦書きの市販の用紙を使用する。
- 枚数は特に指定しない。作品は清書して提出する。

3. 募集期間

平成27年5月1日(金)～5月23日(土)

4. 作品の送り先

〒901-0333
糸満市摩文仁614番地の1
沖縄県平和祈念資料館
(電話:098-997-3844・FAX:098-997-3947)



入館者600万人目 突破

開館以来、県内外から多くの皆様が当資料館を訪れています。平成27年2月7日（土）には、平成12年4月の開館以降、600万人目のお客様が訪れました。

今後も当資料館では、より一層、展示・事業の充実を図り、平和を発信する役目を担っていかうと考えています。皆様のご来館を心からお待ちしております。

コメント

「団体旅行で来たのですが、たまたま600万人目になったということで、とても光栄に思います。」



福井県勝山市の会社員 山内 良隆さんと國仲 功館長

第24回 児童・生徒の平和メッセージ 詩部門 高等学校の部 最優秀賞

「今とむかし」

沖縄県立宮古高等学校 二年 ^{しもし}下地 ^{すずか}涼香

空はいつも 青かった
海はいつも 輝いていた
風はいつも 心地良かった
島にはいつも 笑い声が響いていた
こんな日が 来る事も知らず
嵐は突然やってきた
戦争という名の 残酷な嵐が
足音すらも立てず 南の島へ
嵐は 重い鉄の大雨を降らせた
鉄の風を吹きつけた
必死で逃げるわたし
恐怖でふるえるわたし
壕の中でじっと息を殺すわたし
おなか为空いて 食べ物を探し回るわたし
爆音や怖さで 眠れないわたし
家族を失い 悲しみに泣き叫ぶわたし
あの惨劇から六十九年経った今
必死で逃げるわたしは いない
恐怖でふるえるわたしは いない
壕の中でじっと息を殺すわたしは いない
おなか为空いて
食べ物を探し回るわたしは いない
家族を失い 泣き叫ぶわたしは いない
しかし それが現実にあったむかし
沢山の命が 一瞬にして奪われた **あの日**
忘れ去りたい あの現実を
私たちは 忘れてはいけない
語り継ぐ者として
精一杯 生きていく義務がある

69年前
これは決して 遠い過去ではない
沖縄の空には
まだあの時のように
戦闘機が 大きな音を立てて飛んでいる
戦争が残した傷跡は
今も尚
島の人々の心に深く刻み込まれている
平和に見える 今日
密かに 島の人々の心は戦っている
消えることのない 傷跡と
2014年
空は今日も 青い
海は今日も 輝いている
風は今日も 心地良い
島には今日も 笑い声が響いている

資料のご提供について

戦後70年を迎え、戦争を知らない多くの戦後世代へ、二度とおこしてはならない戦争の教訓を語り継いでいかなければなりません。そのためには、戦前、戦中、戦後の資料等が重要な役割を果たしていくこととなります。このような資料をお持ちの方は、是非ご寄贈下さいませよう、御協力お願い致します。詳しくは、沖縄県平和祈念資料館までお問い合わせ下さい。

県内学校向け平和講話について

沖縄戦の歴史的教訓を次代へ正しく伝えることが急務となっています。当館では沖縄戦の理解と平和のために何が出来るかを考えてもらうきっかけとなるよう、県内の小中高校、特別支援学校に対する「平和講話」を実施しております。内容は、沖縄戦に至るまでの歴史的経緯や沖縄戦の特徴、常設展示室の見所などです。総合学習等の一環としてさらなる活用をお願いします。年間を通して実施しておりますが、4月から慰霊の日にかけては込み合いますので早めの御予約をお願いします。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
URL <http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947
E-MAIL webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp



日本平和博物館会誌
ASSOCIATION OF OKINAWA MUSEUMS FOR PEACE